

中 1 例で側頭葉の血流増加を認め、7 例中 6 例でいずれかの検査で異常が検出できた。FDG-PET では 7 例中 6 例で側頭葉に低集積を認めた。ペメグリド負荷脳血流 SPECT の焦点診断能は、FDG-PET と同等であった。

5. 心 Fabry 病患者の ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィの所見

土持 進作 中別府良昭 中條 政敬
(鹿大・放)
吉玉 隆 木原 浩一 中尾正一郎
(同・一内)

心 Fabry 病患者の心筋交感神経機能の変化を ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィを用いて評価した。対象は心 Fabry 病の男性患者 6 例 (59~75 歳) で、 ^{123}I -MIBG 111 MBq を静注後の胸部 dynamic 像、30 分および 4 時間後の胸部 planar 像と心筋 SPECT 像を用い、心筋全体および局所の摂取率と洗い出し率を算出した。局所は安静時 TI 心筋 SPECT とも比較した。心拡大および摂取率の低下とともに洗い出し率も亢進した。局所的には、下壁、側壁を中心に集積低下と洗い出し亢進を認めた。TI も同様の分布を示したが、MIBG の方がより広範囲かつ高度であった。心筋交感神経機能は下壁、側壁を中心に障害され、心筋血流の変化よりも強い変化を示した。疾患特異的とは言えないまでも病態把握には有用と考えられた。

6. 虚血性心疾患に対する PTCA 後亜急性期の ^{201}Tl 負荷心筋 SPECT 所見の検討

小坂 一英 石野 洋一 中田 肇
(産業医大・放)

虚血性心疾患に対する再灌流治療後、比較的早期 (10 日以内) に施行された負荷 ^{201}Tl 心筋 SPECT 所見が治療効果を十分反映するか検討した。

対象は当院にて虚血性心疾患と診断され PTCA が施行された症例中、慢性期に再狭窄の認められなかった 10 例 (OMI 6 例, angina 4 例)。PTCA 後 10 日以内と 3 か月以降とに治療効果判定のため負荷 ^{201}Tl 心筋 SPECT が施行された。心筋 SPECT の解析はスコア法で半定量的に行った。

負荷後早期像を PTCA 後 10 日以内と慢性期で比較すると、欠損スコアは有意に減少し所見の改善が見

られた。また治療後 10 日以内の再分布の程度は慢性期に比べて有意に高く、治療後 10 日以内の時点で一見残存虚血に見える症例も存在した。再灌流治療後の心筋血流の回復遅延がその一因と考えられ、この時期の負荷心筋 SPECT は治療効果を十分には反映していない結果となった。

7. 肺腫瘍診断における MET-PET, FDG-PET の比較検討

佐々木雅之 桑原 康雄 吉田 毅
中川 誠 福村 利光 陳 涛
増田 康治 (九大・放)
一矢 有一 (九州がんセ・放)

[目的] 肺腫瘍診断における ^{11}C -methionine (MET)-PET, FDG-PET の有用性について比較検討した。[方法] 対象は MET-PET, FDG-PET の両者を施行した 41 名の肺腫瘍性病変患者で、原発性肺癌 33 名 (腺癌: 14, 扁平上皮癌: 8, 大細胞癌: 2, 小細胞癌: 3, その他: 6), 炎症 8 名である。MET-PET, FDG-PET は体重で補正した投与量に対する集積比 (SUV) にて評価した。[結果] 病巣の MET 集積, FDG 集積は相関を示した ($r=0.72$)。MET 集積は肺癌: 3.7 ± 1.3 , 炎症: 1.9 ± 1.1 , FDG 集積は肺癌: 5.8 ± 2.9 , 炎症: 2.7 ± 0.9 で MET, FDG ともにがんと炎症の間で有意差を認めた ($p < 0.001$)。[結論] 肺腫瘍性病変の良悪性鑑別には MET-PET, FDG-PET のいずれも同等に有用と考えられた。

8. Warthin 腫瘍におけるレモン負荷 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 耳下腺シンチグラフィの検討

松本 陽 三宅 秀敏 堀 悠子
竹岡 宏 清末 一路 田中 良一
相良 桂子 林田 朋子 高木 一
森 宣 (大分医大・放)

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ 耳下腺シンチグラフィは Warthin 腫瘍に異常集積しレモン等を用い唾液を分泌させた後ではより鮮明に集積するといわれている。今回われは Warthin 腫瘍のレモン負荷 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ シンチグラフィの有用性について検討を行った。

対象は 1993 年 6 月から 1997 年 3 月にレモン負荷